



CONTENTS

特集 平成10年度 就職指導 就職ガイダンス 企業講師講演から 先輩の就職活動体験談から

■文部省から「昼夜開講制」認可される

■TOPICS

講演会だより
オレゴン州立大学滞在記No.2 他

■アンテナ

社会交流センター産声をあげる 他

■キャンパスライフ

体育大会・クラブ活動 他

■平成9年度 学部生院生の学会発表者

■INFORMATION

大同工大キャンパス

1998
JANUARY

1

DAIDO INSTITUTE OF TECHNOLOGY

1998.1.26 No.23

編集・発行 大同工業大学社会交流センター
〒457-8530 名古屋市南区滝春町10-3
TEL 052-612-6193



——就職ガイダンス・企業講師講演から——

こういう人材はほしい。 こういう人材はいらない。

日本電話施設株式会社テクノロジー総合研究所 管理部長 清水 祐一 氏



不況時こそチャンス

私は研究所の赴任前には、バブル期の求人難時代の3年間、採用担当部長でした。あの時代は自分の実力以上の会社に採用されている人がいます。でも、当社ぐらいに適している方が、日立やNTTに入社しましても、そこには東大や京大卒のマスター、ドクターばかりですよ。それではやめて行く人が多いのです。

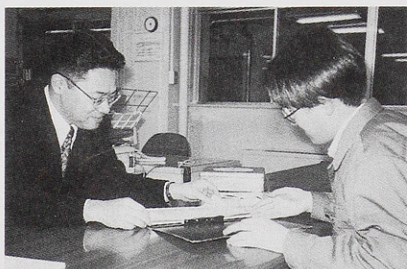
採用する企業側としては好況、不況にかかわらず人材が欲しい。悪い時はそれこそ数は少なくてもいい人は欲しいのです。ですから皆さん方を気の毒だとは決して思いません。こういう不況の時期こそチャンスです。

私は昭和41年、非常に電気関係が不況の時期に当社に入社しました。就職の担当の先生が「日本電話施設という、今未だ小さいけれどNTT関係の仕事をしている非常に堅い会社があるよ」と薦められて入社したのです。

不況期に入社した15人の同期生は全員残っています。不況期はダメな人は採用していない訳で、極く少数だから幹部になれる要素が多いといえます。

不況期の皆さんは運が良いか悪いか分かりませんが、気の毒だとは絶対思いません。こういう時代こそ、いい会社に入って勤めれば必ずや成功すると思って、自信をもって努力していただきたいと思います。

こういう不況期に人材を採用する会社はいい会社です。小さな会社でもいい会社ですから、頑張してほしいと思います。



こんな人いない2例

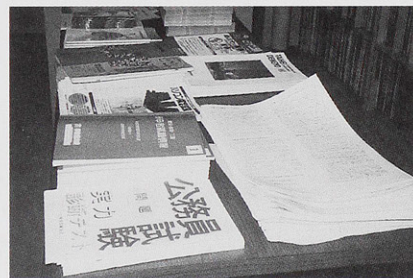
さて、企業にとって「こんな人はいらない」というのはハッキリしています。

一つは「相手に暗い印象を与える人」。何を聞いてもハッキリしない。どうも暗いイメージでこの人は裏も表もありそう、本音でしゃべらない、どうもよく解らない。そういう暗い人と相手に思わせる人です。

二つは「チームワークを壊す人」

会社は一人で仕事をするのではなく、組織で成り立っていて、何人かのチームワークで仕事をするわけです。「この人間はチームに溶け込めない、チームワークを壊すんだ」という印象を与えれば、間違いなく落ちます。

そのあたりを自分で考えて、逆な印象を与えるように、是非、工夫して欲しいと思います。

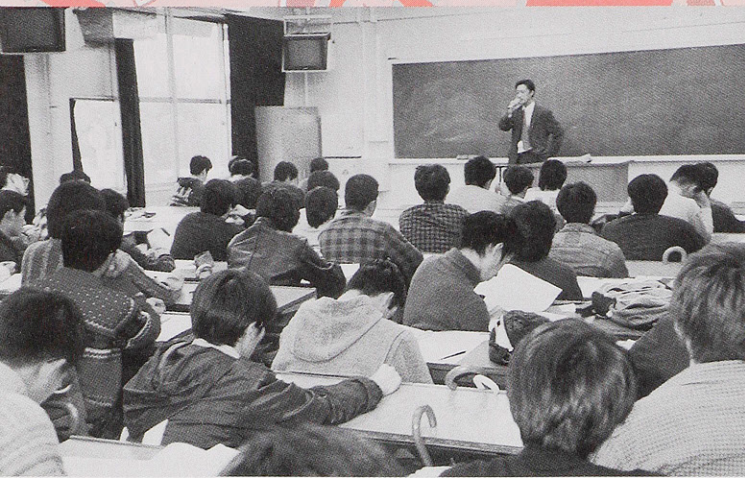


面接の注意点

面接に対して注意していただくことをお話します。

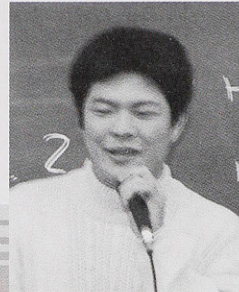
相手の企業を研究して頂きたい。自分の一生を賭けるのですから、その会社に入りたいという気持ちと同時に、どう云う会社なんだと云うことをよく研究して下さい。皆さんの先輩などを通じてその会社の強いところ弱いところなど、いろんなところを研究して下さい。研究しないと熱意が伝わらない。その当時の私は、顔を見て、一言、二言しゃべれば、この人は、どんな人か判るんです。熱意を感じる人は、うちの会社をよく知っていて、勉強をしているなと思います。

何でその会社を選んだかと云う志望動機と、どう云う希望職種、仕事をしたいかを必ず持って下さい。何故うちの会社を選んだかねと訊きます。うちの会社でどう云う仕事をしたいのかねと訊かれます。明確に自分の言葉で主張するのですが、職種については希望どおりにならないので、こだわってはいけません。とは云っても、どこでもいいですでは、いけません。自分の意見を持っているけれど、



就職ガイダンス

—先輩の就職活動体験談から—



94 D 021

内田 貴政 さん

<東洋電機株式会社>

自分の言葉で話そう

そろそろ就職を考える時期が近づいた頃でも、どんな仕事か、どの業種に行きたいのか、よく自分でもわかっていませんでした。それでもとにかく企業を8～10社くらい訪問したのですが、まだ漠然としていました。

次に、会社説明会に出かけても、ただ聞くだけで、自分からは何を質問していいのかわからない。ようよう30社あまり会社訪問して、聞きたいことを質問できるようになりました。

一番大切なことはまず、足を運ぶことです。すると自分のやりたい仕事がわかってくると思います。

次に、面接でよく聞かれることは「大学4年間に何をやってたか」です。それは自転車で全国一周したとか、どこかへ行ったとか、「あなたしかしていない経験は何ですか」と聞かれています。

面接は一人で4人の面接者に囲まれることもあります。「何か特別のことを言わなくては」とか「こういう会社に対しては…」などと考えて、自分以上のことを話そうとすると、イヤな気分になったり、入社した後でもそのギャップのツケがくると思います。

いつも友達と話していること等をキチンとした言葉で、正直に話せば十分だと思います。

自分が行きたいなと足を運んだ企業でも、選ぶのは企業の人です。ダメだとしてもそれは価値観の違いだし、これがやりたいと思って、まだ学生の判断ではたかがしれていると思います。

自分の意見を持って自分の言葉で話すことが、結局近道だと思います。

もう一つ、家族のこと、お父さんお母さんのことを言えますか。どういう会社について、どういう仕事をしていて、子供たち家族の状況など。その内容がいいとか悪いとかではなく、面接で聞かれたらキチンと話せるかどうか、それが基本です。しっかり父母に聞かれておかれるといいと思います。

私が合格したのは、それが言えたからかな、と思っているのですが。

その職種にこだわらないことが大事です。

本命と当て馬が有りますよネ。建前的には、本音を言った方がいいです。私は、日本電話施設にも行きたいと思っていますけれども、実はA社に行きたいと、こう云う時期ですから巧く交渉、折衝して下さい。

何故このような話しをするかと申しますのは、私など、毎日、何人かの人と会っていると、うちの会社が本命か当て馬なのかは、一寸と話せば直ぐに判ります。ですから私は大抵のことは、正直に話した方がいいと思います。私の場合は、そう云う人を採用しました。

皆さん方が最初に会う会社の人は、大事にして下さい。最初に会わなければならない人は、大抵若い人で、生意気な人で、人を怒らせるタイプが多いのです。面接をする場合、最初は若い人事担当者から課長、部長と順に会って行かなければいけませんので、最初の人に嫌われたらそれ以上、上がれないので終わりです。就職活動とは、自分を売り込むことですから、最初に気に入られることが大事です。



悔いない就職活動を

女子の方は、厳しいと思います。日本の経営のトップは、まだ女子に偏見が有ります。同じ給料を払うのなら男の方が使いやすいくと云う偏見がある。女子の偏見を持った会社に入っても損をすると思いますので、じっくりと考えて就職活動をして頂きたいと思います。

学歴（大学）に対しての偏見があります。だんだん無くなって来ているとは云うものの、残念ながら経営のトップに偏見があります。ただ、入ってしまえば、偏見はありません。特にこう云う時期ですから、偏見を持っていたら、会社はつぶれてしまいます。

何れにせよ、悔いのない就職活動を展開して頂きますようお願いいたします。

これで、終わります。

—先輩の就職活動体験談から—



94 A 010

岩月園絵さん

<トヨタホーム名古屋株式会社>

どんどん自分をPRしよう

就職ガイダンスが始まって、就職のことより学生生活をエンジョイしたいと思っていました。

それでも、4月・5月になると会社案内依頼のはがきを送ったりしましたが、まだ意欲がなかったものでした。

ところが周囲の人たちが企業展へ出かけたとか、10社、20社訪問したとか聞いて、「これではいけない」と思って、おそろおそろ企業展に行きました。

住宅メーカーの出展は少なく5社くらいでした。設計とか座る仕事より、動いていた方が自分らしいという単純な動機で選んだのですが。

とりあえず資料をもらい、一社ずつ回ってみました。「ここは暗いなア」とか「自分には合わない」とか思ったり、内定したのは「行きたいな」と思った会社でした。

その場に居た人事の方に知りたいことをどんどん聞き返していたら「よかったら会社説明会に来ませんか」と誘っていただきました。

説明会も人数の多い会場では目立たないと考えて、人の少ない豊橋会場に行きました。そして人事の人に目立つように、わからないなりにどんどん聞いて、また自分の考えを言ったり、他人の3倍も4倍も質問しました。

実は内定した会社は女子2名の採用枠があったので、これならチャンスがある!と思ったのです。でも、内1人は成績の良い人が学校推薦を先に取りられていたので「ああ、どうしよう」ととことん悩みました。指導部の先生にも激励されました。

気持ちを持ち直して、成績が少しくらい悪くても「こういう人材ですから採用して下さい。」と前向きに自分が目立つように、どんどんPRしたのです。

どうか皆さんも成績が悪かろうと気落ちしないで、そういう努力をされたらいいと思います。

学科試験対策は、私は勉強があまり好きじゃないですが、必ず出題される漢字と熟語だけはしっかりやりました。それだけでもやっておけば、必ず点数を稼げます。

最後に、男女とも10月の「宅建」を受験され、その資格があれば採用にも強いと思います。



太田福男 就職指導部長

不況だ、不況だとの世評の中、来春の就職をひかえた3年生はもちろん、2年生も無関心ではおれない就職活動。

そこで、平成9年度を振り返りつつ、10年度の本学の就職指導について、太田福男就職指導部長にお聞きしました。

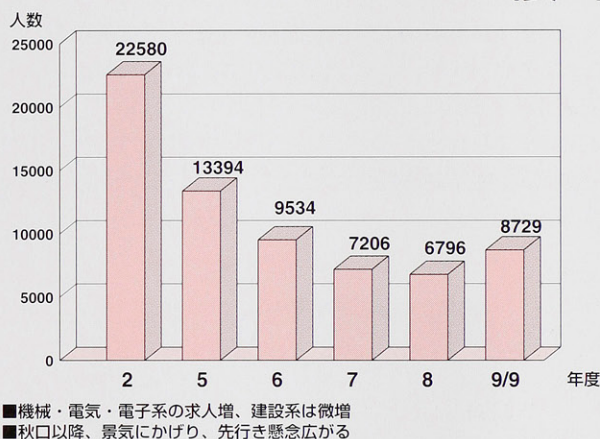
求人数は増えた!

まず<表I>を見てほしい。

求人数は氷河期を乗り越え、9年度は増加(前年比30%)しているのです。求人企業も2956社(前年比10%増)となっています。

求人数の推移

<表I>



6月が戦線ピークに

9年度の大きな変化は就職協定がなくなったこと。

就職協定とは、求人企業がお互いに求人活動を同時スタートしよう、と、例年7月1日と協定していました。その協定が昨年度から廃止されたのです。

企業側にとっても手さぐり状態、学校側も動きがわからない。とはいえ採用活動が自由となったので、暮れに試験を始める企業があるなど、早期化の動きが多々現れました。

3月に活発化

4月には就職戦線が始まり

5月中旬には内定が出始める

6月ピーク

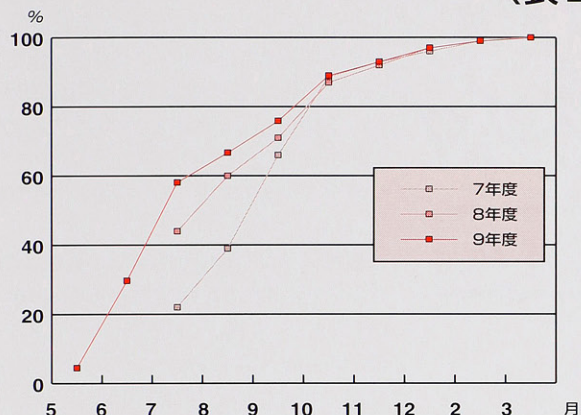
という経過をたどりました。例年のピークは8～9月でしたから、2～3ヶ月の前倒しとなったわけです。

<表II>の内定率比較を見て下さい。内定は早まったという

平成10年度 就職指導

内定率比較 (H7. H8. H9)

〈表Ⅱ〉

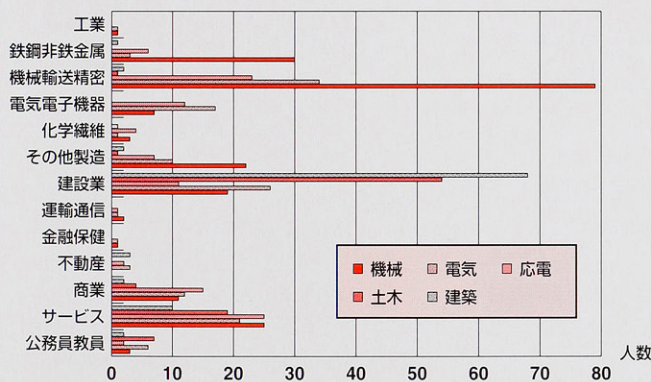


ものの、10月になると例年と同じ内定率となっています。本学の就職指導もそれら動きに対応して、例年より半月～1ヶ月早められています。また昨年、一昨年とも100%を達成し、本年もそれは十分可能として、関係者は現在、大いに努力中です。

〈表Ⅲ〉も参照して下さい。

平成8年度業種別内定状況

〈表Ⅲ〉



推薦する企業の分類を明確化

本学には斡旋した企業の5～10年間のデーターが蓄積されていますが、その8000社余りの企業の分類をポイント制にして、9年度より明確化しています。

- ・資本金／従業員数
- ・求人数（毎年か、突発的かなど）
- ・採用率
- ・定着率

その他、本学に来訪された実績の有無や将来性、本学との信頼関係などの諸要素を基に分類され、特に推薦したい企業や一般

推薦企業などとして、就職指導部と各学科担当と協議しながら進めています。

インターネットの求人活動も

ここで、平成9年度の特徴を記入してみます。

平成9年度就職状況の特徴

- 就職戦線早期化(選考6月ピーク)
 - 内定率の向上
 - 内定企業の規模的シフトアップ
 - 女子には依然厳しい状況
 - 地元指向が依然強い
 - 求人活動のインターネット活用本格化
 - 大学院進学希望者の増大
- (H8-31名 4.5% H9-56名 8.0%)

中でも大手企業を始めとして、インターネットを通じて求人情報を流す傾向が強まってきました。本学も就職指導部にパソコンを6台設置して解放していますから、大いに活用して下さい。

4月からスタートしよう!

ここで改めて、平成10年度のスケジュールを見てみよう。

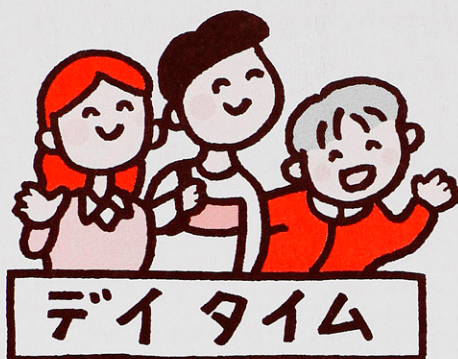
平成10年度就職指導スケジュール

- 10月 第1回ガイダンス【本年度就職状況】
就職適性検査
- 11月 模擬試験(一般常識)
- 12月 第2回ガイダンス【先輩体験談・企業講師】
能力試験(言語・数理)
- 1月 エントリー試験／大学院生ガイダンス
- 2月 第3回ガイダンス【就職登録票手続き】
作文試験
- 3月 第4回ガイダンス【面接指導】
学科内面談・学科整理

本年も半月～1ヶ月早める計画で取り組み、ガイダンスは3年次生ですべて終了し、4年次生のスタートから就職活動が始められるよう、スケジュールされています。

面接による人物重視の傾向とはいえ、基礎学力が試されるのは当然です。常日頃の勉学を怠らずに。

文部省から 「昼夜開講制」 認可される



夜9時までの12時間を授業開講

D教授／いっちゃい。特に何っていうことはなかったんだが、今日は4月から始まる新しい制度のことを話してあげようと思ってね。

Q君／新しい制度ですか。僕にも関係あるのですか。

D教授／そうだね。関係ある部分もあるし、直接は関係ないところもあるね。しかし、知らなくては色々具合の悪いことがでてくるのではないかな。

Q君／そうですか。じゃ、ただでコーヒーいただくのも気が引けるから、拝聴しましょうか。

D教授／こりゃ、気がつかなくてすまないな。今コーヒー入れるから。(こいつ催促しやがったな)

4月に本学に新しい制度を設置することが文部省から認可されました。正式には「昼夜開講制」といいますが、これは21世紀という新時代の大学のあり方を目指す制度です。

制度の概要をわかりやすいように問答形式で紹介しましょう。読者のみなさんの代表は2年生のQ君としましょう。Q君は、指導教員のD教授から、久しぶりに研究室に顔を見せるように言われて、お茶でも飲むつもりで寄ってみました。

間を設定する制度として「フレックスタイム制度」というのが最近普及してきているんだが、その「フレックス」だね。他大学では、朝7時とか早朝に授業を開講している場合も出てきているし、何より昼の授業も受けられる訳だし、「ナイトタイム」というより、やはり「フレックス」だね。

Q君／フレックスコースの学生というのも出てくるんですね。

D教授／そうなんだよ。今年は、入試はこの1月から3月までに数回実施することになっているんだが、4月には最初のフレックスコースの1年生が入学するんだ。

Q君／何人ぐらいですか。

D教授／何人になるかまだわからないが、定員としては君の所属する機械は40人、あと電気・土木・建築・応電がそれぞれ20人で、全体で120人となっているんだ。フレックスコースの学生は、さっきもいったように6限目・7限目に主として授業を受けるんだが、4年間で50単位までは1～5限目までの授業をとっていいんだ。

<参考>

昼夜開講制の趣旨

「昼夜開講制」は、さまざまな人が大学で学修できるよう大学の授業時間帯の柔軟化を図るもので、新たに平成3年に文部省令によって制定された制度です。

従来、大学における授業が朝から夕方までの時間帯に実施されていたのに対し、この制度では大学が昼夜にわたって授業を行うことにより、学生(社会人学生を含む)は生活のスタイル等により都合のいい時間帯に授業を受けられるというものです。これにより、特に職業をもった社会人は従来以上に容易に大学教育を受けられるようになりました。

本学においては、優秀な工業技術者を養成し、産業界の発展に貢献することを建学の精神とすることから、工科系大学としては他大学に先んじて昼夜開講制を導入することにしました。

なお、正式には「昼間主コース」「夜間主コース」という名称ですが、大学によって固有のコース名称をつけるところもあり、本学では「デイトタイム・コース」「フレックス・コース」といいます。

デイトタイム・コースと フレックス・コース

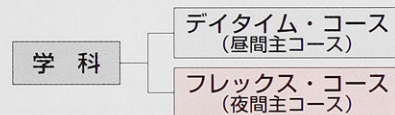
D教授／この制度の名前は「昼夜開講制」といってね、大学が授業を昼も夜も行うことをいうのだよ。

Q君／昼も夜も授業をやるといって、僕は夜も授業を受けに大学にこなくてはならないんですね。

D教授／いやいや、そういう訳ではないんだ。君は昼に授業を受ける学生だから、4月からは「デイトタイム・コース」に所属することになる。デイトタイムコースの学生も夜の授業も希望すれば受けられるんだ。ただし、最大でも30単位までだし、教室の収容能力などの関係で履修申請をしても認められると限らないがね。

Q君／じゃあ「ナイトタイムコース」もあるんですね。

D教授／いや、6限目・7限目に主として授業をとる学生もこの4月から入学してくるのだが、コースの名称は本学では「フレックスコース」というんだ。「フレキシブル」というのは「柔軟な」という意味の単語であることは知っていると思うが、会社なんかで社員が自由に勤務時



(注) カッコ内は文部省令におけるコース名称

Q君／フレックス・コースって、よくある夜間部というのとは違うんですか。

D教授／夜間部や二部というのとは違うんだ。それらは昼の学部とは全然別の学部だからね。従ってカリキュラムも昼の学部とは全然別なんだ。それに対してこの昼夜開講制というのは、単に授業時間帯が広がったということであって、教育の内容は昼も夜も同じなんだよ。もちろん卒業資格も全く同じだ。

Q君／同じなら、どうしてコースで分けるのですか。区別なんかいらないように思うんですが...

D教授／確かにそうだが、ただ、コースで分けて実施しないと、例えば学生の全員が昼の授業を受けるとか、逆に夜の授業に集中するとかしたら、教室のサイズとか、実験設備が不足するとかといった不都合が出てきて混乱するからね。そんなことから文部省では、コースで分けているんだ。

デタイム・コースの学生も フレックス・コースの授業が うけられる

Q 君／デタイムとかフレックスといってもいいまいちピンとこないんですが…

D 教授／今は1限目から5限目まで授業が開かれているね。それが、新制度になると夕方6時から始まる6限目と7限目が増えることになる。7限目の終わるのは9時ごろになるだろうね。

Q 君／デタイムコースとフレックスコースの学生が相互に授業を受けられるって、どういうことですか。

D 教授／デタイムコースの学生は30単位まで6・7限目の授業をとることができるし、フレックスコースの学生は50単位まで1～5限目の授業を受けることができるんだ。

Q 君／じゃあ、僕も夜の授業を受けられるんですね。何をとうろかな。

D 教授／いや、ちょっと待ってくれたまえ。実は今年の4月に夜の時間帯(6・7限目)に開講する授業は1年次生の分だけなんだ。来年4月には2年次生の授業、その次の年は3年次生の授業と、段々開講されるんだけどね。だから、今度3年生になる君はほとんどメリットないんじゃないかな。

Q 君／なーんだ。僕らはいろいろ受けられないの。期待して損した。

D 教授／残念!ってとこかな。もっとも、1年次に落としている授業があれば、夜に履修することはできるね。本来の趣旨とは違うがね。

Q 君／そう、なら少しはラッキー!かもしれない。実は、今まであった二重履修が平成10年度からできなくなったと聞きましたが、そうなるって落とした単位がとれなくて困ることも出てくるなって思っていたんですよ。大学も結構いいこと考えますね。

D 教授／いやいや、そんなための制度ではないからね。そんな使い方はあくまで付録だからね。

Q 君／とにかく、このフレックス・コースの履修のことの詳しい説明は僕らにしてもらえんでしょう。

D 教授／うん、それは春の履修登録前のガイダンスで説明があると思うから、よく聞いておくんだね。

図書館・窓口 クラブ活動

Q 君／授業の他に何か変わることはありますか。

D 教授／そうだね。図書館やその他の窓口のオープン時間はいま事務のほうで検討しているところだから、まだ最終的なことはいえませんが、フレックス・コースの学生がいる時間帯はオープンするというのが基本なんだ。だから多分図書館は夜9時すぎまで開館するだろうから、大いに利用してほしいね。それから、教務や学生の事務窓口も9時すぎまでオープンするだろうから、君たちにとっては助かるんじゃないかな。情報処理センターは今でも申請すれば夜8時まで利用できるようになっているが、これも恐らく9時ぐらいまでは利用できるようになるんじゃないかな。

Q 君／フレックスコースの学生のクラブ活動はどうなるんですか。

D 教授／そうそう、それは大切なことだね。

デタイムもフレックスも同じ学部・学科の学生だから、クラブ活動などの課外活動は一緒にやるのが基本だね。新入生が入ってきたら両方のコースの学生を積極的に誘ってほしいね。

Q 君／部員が増えるのはうれしいんですが、両コースの学生は大学にくる時間帯が違うんですよ。どうやって一緒に活動するのですか。

D 教授／そのあたりは、まだよくわからないな。フレックスの学生といっても、日中比較的時間の余裕のある学生もいれば、時間の余裕はないが、何とか生活の中に潤いをもちたいと思っている社会人など、ひとりひとり違うからね。それぞれのクラブで工夫してほしいね。でも、積極的に考えれば、今までとは違ったタイプの部員が入ることはクラブが活性化するチャンスにできるんじゃないかな。

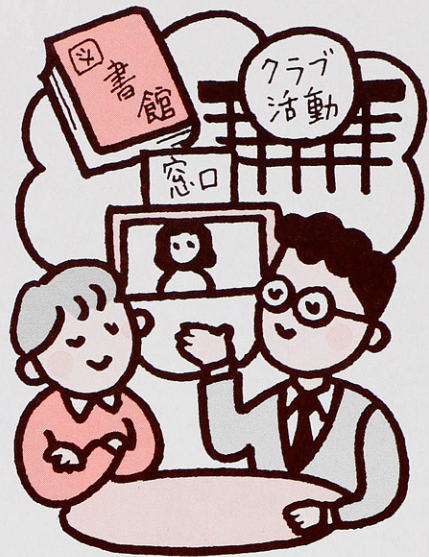
Q 君／ところで、特に冬なんか実験や部活を終えて帰る時、キャンパスが随分暗い感じがするんですが…。

D 教授／そうなんだ。特に君なんかと違ってフレックスコースの学生は、夜のキャンパス生活が中心だからね。それで、今、キャンパス内を明るくするように工事を準備中なんだ。滝春のグラウンドの横の街路も明るくなるはずだ。

21世紀の大学の姿を 目指して

Q 君／ところで、昼も夜も授業をやるとなれば、先生は大変じゃないですか…。なんで、この制度をやることにしたんですか。

D 教授／そうなんだ。それで実は一昨年の暮れから半年の間、学内でいろいろ議論を重ねたんだ。学科でも議論し、委員会でも議論し、教授会も何回か開いてね。その結果、負担は大変だが、これからの社会のあり方の変化を考えた時、大学が今までどおりのあり方ではいけないんじゃないかという結論になったん



だ。もう少しいうと、これからは学校を出たもう学校には縁はない、という時代ではない。人生の中で、その人にふさわしい時機に大学で自分を高めたり、リフレッシュしたりする時代だと。また、欧米なんかでは多いそうだが、高校を出たらず社会体験を初めにして、それから大学で学ぼうという考え方の人も出てくると思う。こういう社会の要求に応じて行くためには、社会人が大学に来やすいようにしなければいけないんだ。

Q 君／これから、どこの大学もそうなるんですか。

D 教授／21世紀は生涯学習時代になるといって、このような考え方は全国の大学でもだんだん共通になってきているんだが、負担増やなんかがあるから、国立大学が先行しているね。私立大学では今年度で同志社大学や立命館大学が取り入れたんだが、まだ導入をためらっている大学が多いんだよ。理工系の大学としては全国でも本学は2番目という早さなんだ。本学は勇気をもって一步を踏み出したということだね。

Q 君／それって自画自賛というやつですね。まあ、いいことはいいか。この辺の大学ではどこがやっているんですか。

D 教授／工学部としては国立の岐阜大学が数年前に始めたんだ。理工系の私立大学としては今年の春に本学と愛知工大がトップを切ってスタートするんだ。

Q 君／ところで、僕は大学院に行きたいと思っているんですが、大学院の昼夜開講制というのはないんですか。

D 教授／いや、あるんだが、今年はまだ大学院まではやらないんだ。実は大学院についても検討はしたし、社会のニーズを考えると大学院の昼夜開講制も導入するのが好ましいという認識では大体一致したんだが、とりあえずは学部で経験を積んでからということになったんだ。

Q 君／あっ!先生、すいません。これからボードにでかけるので、今日はこれで失礼します。

D 教授／えっ!ボート?この真冬に?



後援会だより

本学後援会（会員数：約3,100名）が主催する、平成9年度教育懇談会が10月18日から11月8日にかけて9地区11会場で開催され、盛況のうちに終了しました。

この懇談会は後援会が会員である全学生の父母に対して行っている最大の行事の一つであり、大学とご父母の皆さんが両輪となって学生たちの豊かなキャンパスライフを支援したいという願いから東海3県をはじめとする全国各地へ学長をはじめとする大学教職員が参加して、次に掲げる内容を提供しています。

教育懇談会終了報告

大学の現状や将来計画、
日常生活、就職など

進路に関する最新情報の提供

今回より、パソコンによって作成した画像をスクリーンに投影したものをを用いて説明が行われました。分かりやすく鮮明で迫力のある画面は出席者に好評で、特に大写真になった大学新キャンパスの完成予想図は注目を集めていました。

学生の最新の成績表をもとにした、
父母と教員の1対1の面談

教育懇談会の中核をなす企画です。指

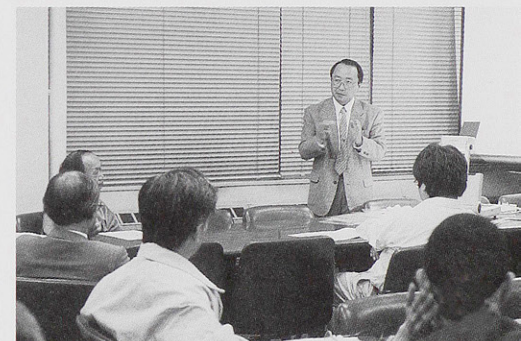
平成9年度国庫及び愛知県補助金の交付状況

科学研究費補助金9件11,900千円が採択されました。その内容は、次の通りです。
愛知県からの経常費補助金は、97万円でした。この補助により教育研究設備の充実が計られました。

国 庫 補 助 金		補 助 金 額
科学研究補助金 9件		11,900千円
基盤研究B	建築工学科 教授 事口壽男 「変動荷重をうける空气中、腐食環境中の鋼の亀裂進展特性」	2,600千円
	応用電子工学科 助教授 堀尾吉巳 「エネルギー識別されたRHEED観察法による回折図形内の弾性・非弾性錯乱電子の研究」	1,200千円
基盤研究C	応用電子工学科 教授 岩間三郎 「FGE法で成長するメソスコピック粒子の結晶学的評価」	1,000千円
	建設工学科 助教授 酒造敏廣 「繰り返し2軸曲げを受ける鋼変断面橋脚柱の非弾性地震応答性状に関する研究」	600千円
	一般教養数学教室 教授 瀬川重男 「正則関数及び調和関数の境界挙動の研究」	1,000千円
	建設工学科 教授 下島榮一 「乾燥・半乾燥地域での地面蒸発と塩類集積の相互作用に関する研究」	2,000千円
	建設工学科 助教授 舟渡悦夫 「都市における迷惑施設の『創発的環境条件』に関する研究」	400千円
萌芽的研究	電気工学科 助教授 神保睦子 「磁性人工格子を用いたホットエレクトロン伝導制御の試み」	1,600千円
奨励研究A	機械工学科 助教授 大嶋和彦 「圧電素子を利用したセルフセンシング・マイクログリッパの開発に関する研究」	1,500千円
研究成果公開促進費 1件		7,460千円
放電ハンドブック出版委員会 委員長 堀井憲爾 「放電に関するデータベース」		7,460千円
私立大学等経常費補助金特別補助「特色ある教育研究の推進」 3件		8,000千円
建設工学科 教授 山本俊彦 「地震時の構造物崩壊現象の実体験を重視した構造物安全性に関する研究」		2,500千円
機械工学科 CAD教室 「機械設計における情報処理技術者の養成教育」		4,000千円
工学研究科、情報処理センター 「大学院生の情報環境整備」		1,500千円
愛 知 県 補 助 金		補 助 金 額
愛知県経常補助金		970千円

奨励賞受賞

堀尾吉巳助教授（応用電子工学科）は、日本表面科学会から、平成9年度学会賞の奨励賞を受賞されました。受賞論文「エネルギーフィルター型 RHEED から得られる新情報」おめでとうございます。



講演中の堀尾助教授

受賞の言葉



今回の受賞は、新たに開発したエネルギーフィルターを従来の反射高速電子解析装置に組み込み、非弾性散乱電子に関する多くの有益な知見が得られたことが評価されたものと伺っています。結晶表面が関わる研究は最近の電子素子の微小化、薄膜化に伴います重要な研究領域となっており、これを契機に今後とも研究に精進してゆきたいと思えます。

～ 次年度も盛大に！～

導教員はもとより、面談を担当する教員もこの日のために個々の学生の様子について予習したうえで臨んでいます。

面談は主として前期における成績表をもとに行われました。父母から「きちんと授業に出席しているか」「現在の成績で順調に進級・卒業ができるか」そして「就職状況はどのようになっているのか」といった質問が集中し、面談の会場は熱気にあふれていました。

打ち解けた雰囲気の中での

懇親パーティー

面談後は、後援会役員や教職員とさら

なる親睦を深めるために立食形式で懇親会が行われました。ユーモアが混じり、打ち解けた雰囲気の中でご父母と教職員が日常の学生生活の注意点や、履修や奨学金などに関してさまざまな情報交換をおこなう場面が数多く見られました。

各会場においてご父母の皆さんに記入をお願いしたアンケートには、「もっと早い時期から参加していれば良かった。」

「地方から子どもを送り出している親として、非常にありがたい企画だ。」

「大学のトップである学長の熱意がじかに感じられて良かった。」

「他大学にない、暖かみのある後援会や教職員の対応があるので毎回の懇談会が楽しみ。」

「教授に対して怖いイメージをもっていたが、この会に参加してそのイメージが解消した。参加して良かった。」といった感想が多数集まっており、総じてきわめて好評であるとの評価をいただきました。

なお、次年度もご父母の皆さんにとってさらに有意義な内容となるよう実施する予定です。一人でも多くの方がご参加下さいませようをお願いいたします。

総務部庶務室

オレゴン
州立大学
滞在記
No. 2

学生は膨大な宿題のため 深夜まで学内で勉強です

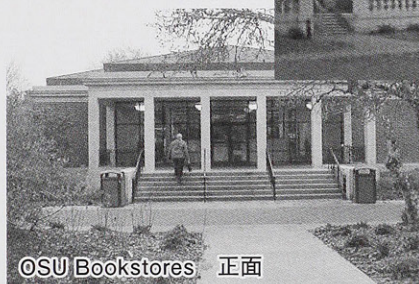
機械工学科助教授 松浦章裕

私がオレゴン州立大学に来て早8ヶ月たちました。

夏には堀井学長先生のOSU（オレゴン州立大学）及びUO（オレゴン大学）の公式訪問があり、両校と大同工大の提携関係を深められました。この機会のおかげで、通常お目にかかる機会もあまりないOSUのResser学長とも親しくお話ができる幸運にも恵まれ、あっという間に8ヶ月が過ぎ去ってしまいました。

今季節は勿論日本と同じ初冬です。北海道より北に位置しているため、同緯度で東隣のIdaho州は、連日氷点下で雪に埋もれていますが、Corvallisは雪もなく温暖です。本来Corvallisの冬は雨期で、毎日雨が降り続くはずですが、今年は晴れの日が多く、気温も昼夜を通して摂氏5～10度で、非常に快適です。

OSUに滞在して感じたことを2点お知らせしたいと思います。



OSU Bookstores 正面

まず教育については、とにかく学生がよく勉強します。膨大な量の宿題が出るためもありますが、毎日夜遅くまで学内で勉強しています。日本と異なり、他分野よりも高収入を約束される工学部の学生は特にまじめです。

しかし、私は米国の教育には大きな問題があるように感じました。それは大学ではなく、高校以前の問題です。米国では、記憶力が最もよく、基礎学力を高めるのに適した若年齢層である高校までの基礎勉強を軽視し、自己表現方法（会話等）の修得に重点を置いていることです。そのため、大学の学部の前半2年は日本の高校と同じ水準の教育を行わねばならなくなっています。また学生は、大学に来て初めて本格的な勉強を始めるように思えます。しかし、年齢的に記憶力が落ちているため、同じ教育水準に達するためには、日本の若者と比較して、より多くの時間と労力を要し、きわめて非能



Memorial Union (学生用施設)

率的です。日本の教育システムは多くの問題を抱えていますが、若年齢層での高水準教育は科学的にも有効であり、結果的に学生にとり最も楽な勉強システムではないかと感じます。

2点目は環境です。OSUのあるCorvallisの町は、人口の半分以上が大学関係者であり知識人が多いため、その環境は他の米国の一般都市とは大いに異なります。人種差別もなく、町の治安は極めてよく、夜中に歩いても不安はありません。この町に住む限り現在の日本よりも安全で、凶悪犯罪は私の滞在中にはありません。本当に銃社会の米国であろうかと疑われるほどです。

最後に、OSUの工学部はWest工学部長、Reistad機械工学科長などの親日家が多く、特にReistad教授は本学との交流に多大の力添えを頂いています。しかし、多くの留学生が来ているOSUですが、日本人は少なく、学内で日本語が聞こえてくることはほとんどありません。英会話の勉強を含め、留学にはこれ以上良い環境はないのではないかと思います。学生諸君には大いに留学に挑戦していただきたいと思います。



OSU vs South Calif. Univ. の football 試合

名古屋商工会議所主催

カレッジ・プラザ '97に出展



平成9年10月29日～30日の2日間にわたって、名古屋商工会議所2階ホールにおいて愛知県下理工系9大学の各研究室が一堂に会し、現在新商品の開発で悩んでいる企業やこれから研究開発に力を入れていきたい中堅・中小企業の成長をサポートするためのイベントが昨年に続いて開催されました。本学からも7研究室が参加し、2日間400余名の来場者に研究の成果を披露しました。

* 本学出展研究室

<機械工学科>

西堀研究室…PDSを用いたロボットハンド用触覚センサ
土田・青山研究室…鋳鉄材料の新加工熱処理法と将来展望

<電気工学科>

藤田研究室…マイクロ波によるプラズマ生成とその応用・計測
中井研究室…ダイヤモンドのヘテロ・エピタキシー

<応用電子工学科>

和田研究室…半導体の超拡散

<建設工学科>

太田研究室…マイクロ波による鉄筋コンクリート構造物の劣化診断に関する研究
山本研究室…鉄筋コンクリート構造物の耐震性向上に関する研究

名古屋世界都市景観会議



学生を中心に「舞い上がれ名古屋」と題して、魅力ある名古屋を創造する具体的なアイデアを提案しました。瀬尾研究室では、堀川に注目し堀川沿いに名古屋城から熱田の宮、名古屋港まで縦のルートを繋ぎ、「水の都市」をイメージさせる構想を提案し、訪れた市民たちは独創的な提案に目を見張っていました。

都市の景観について話し合う世界都市景観会議の関連イベントが、10月6日から8日の3日間にわたって名古屋国際会議場などで開催されました。名古屋大学、名古屋工業大学と本学建設工学科瀬尾研究室の

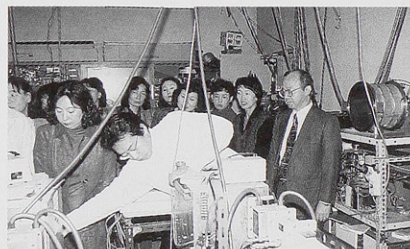
インターンシップ・テレビ放映

テレビの総理府広報番組「情報交差点」で、文部省、通産省、労働省が連携して推進を図っているインターンシップの特集に本学の学外卒業研究が取材され、去る11月8日三重テレビ、岐阜テレビ他、首都圏、近畿圏、中部圏のUHF11局、全国ケーブルテレビ211社から放映されました。機械工学科中島浩衛教授と機械工学科4年の石原一行さんがインタビューを受けていました。いま、本学のインターンシップ「学外卒業研究」制度に注目が集まっています。



横須賀中学校から母親学級

横須賀中学校母親学級による家庭教育セミナーが11月18日本学で開催されました。当日は、保健体育教室の水野教授「健康科学1」の授業体験をはじめ応用電子工学科岩間研究室の実験見学、情報処理センター、図書館などを見学し好評でした。



大同工業大学の一

蟹江良子さん

母親セミナーで、大学を見学させていただけると聞いて好奇心でいっぱいでした。近くに大学があることは知っていても、門の内には踏み込めない所だと思っていました。大同工業大学の現在の説明や未来像を聞き、大学もよりよく変わろうとしていることを知りました。

岩間教授には、私たちにもわかるようにやさしく(内容はとても難しい)講義をしていただき、実験室や電子顕微鏡を見せてもらい、地下鉄の振動にどうして名大が抗議したのかやっとわかったり、研究にとっての環境整備の大切さを知りました。

学生食堂では学生の方と一緒に食事をとり、水野教授の講義を聴い

て学生さんと同じようにウトウトしたり、でも、少年非行についてなどとても興味深かったです。

私の初めての大学生活、とても盛りだくさん企画していただきありがとうございます。大学の方々にとても感謝しております。



社会交流センター誕生

学園・大学は、組織の改正に伴い平成9年10月1日をもって新しく「社会交流センター」を誕生させました。大学広報、国際交流、生涯教育及び研究支援活動の業務を社会交流センターが担うことにより、大学と社会との交流が図られるものと期待されています。なお、国際交流でも学生にかかわること、例えば夏季短期留学や海外留学、海外研修、留学生に関する事務は学生室が担当することになりました。また、各部署の名称が「課」から「室」に変更になりました。

学術講演会

電気学会東海支部学術講演会が、10月14日13時から1時間半にわたって、本学9号館9403教室で開催されました。講演者に元教授加藤哲男先生（電気工学科）を迎え「永久磁石材料の現状と自動車部品への応用など一単極及び双極誘導の現象と新回転センサの開発について」の講演が行われ、学会関係者はじめ卒研生、院生など多数の参加者を得て好評のうちに終了しました。

知能ロボットシステム



平成9年12月11日14時30分から3時間にわたって、自動制御学会中部支部と日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門共催の講演会が、学会関係者、本学関係者及び学生の参加を得て本学9号館9403教室で開催され、好評のうちに終了しました。本学からは、西堀教授（機械工学科）の講演「超音波モータを用いたロボットアームとハンドの開発」と西堀研究室においての、超音波モータを用いたロボットアーム等の見学が行われました。

コンピュータ関連の人間工学シンポジウム

平成9年11月8日（土）、本学9号館において日本衛生学会 VDT 研究会と日本人間工学会東海支部（支部長 本学 高田和之教授）の共催で「VDT 作業における人間工学とオフィスにおける人間工学」に関するシンポジウムが開催され、出席65名の盛況であった。東京、金沢、京都、大阪、福岡など遠方からの参加もあった。

近年コンピュータの急速な普及と職場への多量な導入に伴い、目、手首、腕、肩、背中、腰など各種の傷害が問題になっている。

コンピュータの位置、高さの調節、マウスの大きさや移動範囲、座り方など、生理的側面と共に、精神面における問題点も指摘された。コンピュータの使用による近視化が懸念されているが、これについては欧米、特にスウェーデンやアメリカにおける大勢を対象とする調査の結果、ほとんど問題ないとする結果が紹介された。

また、小学校、中学校などの学校教育におけるコンピュータ教育の場面では、高さ、位置、机、椅子など姿勢に対する考慮が全く払われていないことは問題であるとの指摘もなされた。

近年各種電気機器で問題とされている

電磁波の人間に与える影響についても話題とされ、現時点までの各種調査では、コンピュータ、携帯電話、電子レンジなど使用範囲では一応問題はないとされているとの紹介もあった。送電線近辺についても人間への影響はないとみてよいとのことであった。

アメリカの3M社の・アルビン氏の「オフィスにおける人間工学」についての特別講演では、上記各種傷害の予防と対策について詳細な報告がなされた。マウスの使用に当たって腕と手首を曲げないようにし、内転させないことが大切であること。コンピュータ使用環境の空間的余裕を与えることなど単純な考慮で各種傷害予防が可能なのが7000名の実施例により詳細な報告があった。注目すべきことは、アメリカの職場では、コンピュータの高さの調節可能なテーブル使用が80%実施されているとのことであった。わが国では全く考慮されていないことから、人間工学的取組みの稀薄さが浮きぼりになった。

なお、このシンポジウムは9号館9403教室において実施したが、参加者から施設の立派さの賞讃が相次いだことを付記する。

電気工学科教授 高田和之

吹奏楽団“第12回定期演奏会”

12月19日（金）に本学吹奏楽団の“第12回定期演奏会”が名古屋市民会館にて開催されました。

一年間の活動の集大成として、多くの視聴者を前に、「マスク」「ロマネスク」ほか数曲の演奏を披露しました。団員は心を一つに力いっぱい演じました。



心に響いた拍手 97E158 山田裕周さん
私はこの5月からホルンを吹きはじめた初心者のホルン吹きです。

大学に入るまではピアノをやっていた

たが、気がついたらホルンを吹いていました。だから、ホルンのことはよく分かりません。

最初の頃は、なかなか音が出なくて困りましたが、半年間ぐらいでヘッポコな音ですけど、なんとか聞ける程度の音(?)までふけるようになりました。

そんな私ですが、今年の定期演奏会に出て、本当によかったと思います。自分は初心者で決してうまくはないけれど、それなりに本番はがんばれて、想像していたよりもずっと楽しく吹けました。そして、演奏が終了したときのお客さんの拍手がこんなにいいものだとは思わなかったです。今回の演奏会を通して、お互いそれぞれ違った印象があるけれど、自分自身では今まで音楽をやってきた中で一番成功したものだと思います。そして、この成功がまた味わえるような演奏会を来年もつくりたいです。

体育大会

10月22・23日の両日、学生会主催の体育大会が、日頃の運動不足を解消し、学生・教職員の交流を計る目的で開催されました。総勢700名の参加者がありました。入賞チームは以下の通りです。

- ・ソフトボール 22チーム
優勝 近藤向かって来い
2位 REVOLUTIONS
3位 吉田和広
- ・バスケットボール 20チーム
優勝 イヴ
2位 ミッチーズ
3位 セラミックゴキブローチ
- ・サッカー 16チーム
優勝 ワイルドドック3
2位 喫煙反対組
3位 20BLUES
- ・バレーボール 9チーム
優勝 石川雄一
2位 7月4日を待てなくて(職員チーム)
3位 バレーサークル
- ・硬式テニス 12チーム
優勝 ピザ屋が大変つづれるぞ
2位 代数学AⅡ
3位 職員A(職員チーム)



学生会主催の献血

12月2日(火)に実施されました。
献血者は、次のとおりです。

受付数 85名
献血者 400ml:53名 200ml:15名
成分:8名 計76名



学内レガッタ大会

学内レガッタ大会

11月16日、天候にも恵まれ本学恒例の錦杯学内レガッタ大会が庄内川にて開催されました。成績は以下の通りでした。なお、優勝チームには、同窓会より記念品が贈呈されました。

- ・一般の部 23クルール
優勝 山田錦Ⅳ
2位 ノース・リバー
3位 サッカー部 O・B 滝春会
- ・クラブの部 24クルール
優勝 玉愛(フィブアイル)<自動車部>
2位 MEC360<自動車部>
3位 DM Pink Angels
<モーターサイクルスポーツクラブ>

漕艇部

- ・信毎諏訪湖レガッタ
5月10・11日の両日、長野県諏訪郡下諏訪町にて行われました。成績は以下の通りです。
ダブルスカル 決勝2位
富田純一(94C 神奈川 市ヶ尾高)
清水学(OB)
- ・第42回中日本レガッタ
5月30・6月1日の両日、愛知池漕艇場にて行われました。成績は以下の通りです。
ダブルスカル 決勝5位
富田純一(94C 神奈川 市ヶ尾高)
清水学(OB)

- ・第29回中部学生漕艇選手権大会
6月28日・29日の両日、岐阜県加茂郡川辺町にて、中部学生漕艇連盟主催で開催されました。成績は以下の通りです。

男子舵手付フォア 決勝3位
神田卓浩(96M 三重 宇治山田高)
内山貴博(95M 三重 四日市工業高)
松井秀次(96E 兵庫 姫路工業高)
大浦義則(96M 兵庫 姫路工業高)

女子ダブルスカル 決勝2位
伊藤真奈美(95A 静岡 浜北西高)
江村陽子(95A 愛知 鳴海高)

- ・第19回全日本軽量級選手権競漕大会
男子ダブルスカル 準決勝4位
富田純一(94C 神奈川 市ヶ尾高)
清水学(OB)

レーシングカート

5月18日に岐阜県武儀町の津保川カートランドでレース大会が行われました。成績は以下の通りです。

2位 関泰宏(93M 北海道 札幌平岸高)

8月19・20日の両日、岐阜県瑞浪市の瑞浪レイクウェイで、第2回大学対抗全日本カートレース大会が行われました。成績は以下の通りです。

- ・SSD 部門
2位 磯貝宗克(96M 愛知 大同高)
- ・SSS-DV1 部門
6位 関泰宏(93M 北海道 札幌平岸高)

研究学術の街での一ヶ月

96 E M03 遠藤 誠さん

チーム総合 第3位

10月26日に、岐阜県武儀町の津保川カートランドでレース大会が行われました。成績は以下の通りです。

・FR部門

2位 横地学(97M 愛知 南山国際高)

自動車部

5月25日に開催されました、全中部学生自動車連盟ダートトライアル選手権大会にて、団体3位の成績を収めました。

硬式野球部

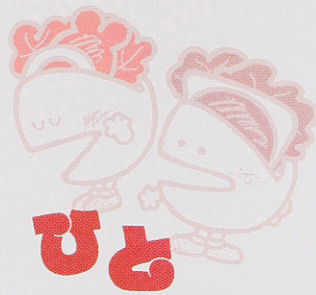
愛知大学野球春季・秋季(4部)において優勝するも、入れ替え戦にて惜敗。来年は、必ず3部に昇格して欲しいところです。

弓道部

・第14回名古屋学生弓道選手権大会

4月13日、名古屋市総合体育館にて行われました。成績は以下の通りです。

6位 水野裕子(94A 名古屋短期大学付属)



修士課程の遠藤誠さんは、平成9年度の学生海外研修に応募し、見事に選ばれて昨秋10月から11月にかけて中国科学院声学研究所へ派遣されました。



食事の毎に通った食堂で。後列右が遠藤さん

昨年10月3日から11月5日までの約1ヶ月間、中国科学院声学研究所へ視察研修生として滞在しました。

私の研究分野は「住環境騒音の研究」で、中国科学院への研修のきっかけは、本学の三品善昭教授と科学院、刈(てい)先生、蔡(さい)先生の従前からの交流から生まれたものです。

大阪から北京首都空港に着陸した日は、ちょうど国慶節の日と重なり、宿舎が満杯ということで天安門から40分あまりに在る外国の高官が泊まるという高級ホテルに6日間も宿泊しました。

中国科学院は北京市海淀区中关村にあり、学術と研究の街という印象が深く、私が宿泊した「中关村(ちゅうかん)村客座公寓」も中国科学院と深く関わり、国家の重点的研究に携わっていないと泊まれないという格式あるホテルでした。

「声学研究所」はその名の通り音声に対する研究所で、機械(パソコン)等と人との音声による対話の研究等もされており、施設はもちろんのこと備品などハード面も充実し、中国版のウインドウ95も見られました。

滞在26日目に1時間の「大同工大に於ける研究」についての講演を依頼されました。

刈先生の通訳による中国語、日本語、英語という3カ国が飛び交う講演でした

が、聴講者には理解してもらっているなど実感できた一時間でした。

日常生活は午前8時から12時までは研究、午後2時まで昼食と休憩、5時ないし6時まで研究といった日程でした。

日本でも戦後しばらくは続いていたという、数分間の停電がしばしば起こり、休講となることも多々ありました。

日中は比較的暖かいのですが、朝夕は吐く息も白くなり、夜間は体験したことがない寒さでした。

観光は土・日曜日に出かけ、天安門、香山公園、北京動物公園、頤和園、万里の長城などを巡りました。

特に衣・食・住の違いはもとより、風土、文化の違いを強く感じました。食物は日本の中華物とは全然ちがいが、表現ができない味です。北京ダックを食べなくては男じゃないとか、出されたものは自分のもので、食べるか持ち帰るか、全て空にするとか。涮羊肉(羊のしゃぶしゃぶ)やゲテモノなども抵抗なく食べてきました。

男女は仕事、家事、子育てなど分け隔てなく受け持ち、親子、夫婦、家族はお互いに尊敬しあい、肥満児の一人っ子が多く見られました。

ホームシックになった私を激励して、誕生会まで開いてくださった中国の人たちに、今一度改めて感謝を申し上げます。

平成9年度 学部生

演 題	学 会 名	氏 名	指導教員
衝撃せん断荷重を受ける接着継ぎ手の応力波シミュレーションと強度評価	日本機械学会東海支部	94M 久保哲	和田均教授
各種薄板材料の変形経路と成形限界	日本機械学会東海学生会	94M 吉田肇、天木剛	中島浩衛教授
衝撃式ねじ締め工具(インパクトドライバ)の性能	日本機械学会東海学生会	94M 安本佳弘、森伸行	糸見和信教授
電動機固定子巻線の等価縦弾性係数(固定子鉄心の固有振動数のFEM解析のために)	日本機械学会東海学生会	94M 長井延光、高橋亮次	糸見和信教授
把持力の大きさ、位置、角度を検出するロボットハンドの開発	日本機械学会東海学生会	94M 石井一史、清水真人	西堀賢司教授
せん断押し出し加工の基礎的研究	日本機械学会東海学生会	94M 榊原裕二、神谷武史	小野宗憲教授
銅めっき応力測定法に対する画像処理法の適用(応力比の影響について)	日本機械学会東海学生会	94M 立松貴博、永田充	杉浦正勝教授
Caustics 法による応力拡大係数の測定精度について	日本機械学会関東支部	96MM 古閑秀樹	和田均教授
落錘式衝撃引張試験法に関する基礎的研究	日本機械学会関東支部	96MM 後藤征弘	和田均教授
高力アルミニウム合金板材の衝撃引張強度	日本機械学会東海支部	96MM 浅井健史	和田均教授
Ti-6Al-4V 合金切欠き材の高温疲労強度に及ぼすショットピーニングの影響	日本機械学会東海支部	97MM 梅村欣史	和田均教授
電気分解により発生する気泡の分布と気泡径の測定	化学工学会	96MM 井上登美子	中村肇教授
フィン付き容器内の融解凝固を伴う熱伝達に関する研究	化学工学会	96MM 米倉剛	中村肇教授
ニューラルネットワークによる摩擦補償をもったロボットマニピュレータの適応極配置制御	日本機械学会東海支部	96MM 小栗隆嗣	藤井省三教授
パルスタウンゼント法による窒素とフロン22を用いた電離係数の測定	電気関係学会東海支部	96EM 杉浦嘉保	近藤芳孝教授
フロン分解リアクターの基礎研究	電気関係学会東海支部	96EM 鷲見光彦	近藤芳孝教授
新しい指標による心拍変動の評価方法	電気関係学会東海支部	94E 船越美江	高田和之教授 茂吉雅典講師
各種姿勢における心拍変動と血圧値との関連の解析	電気関係学会東海支部	94E 佐藤康弘、高山耕一 97EM 森本陽子	高田和之教授 茂吉雅典講師
受動的姿勢変換と能動的姿勢変換の心拍変動評価	電気関係学会東海支部	94E 横井秀俊	高田和之教授 茂吉雅典講師
振幅変調型往復運動負荷装置の開発	電気関係学会東海支部	94D 古橋弘久	高田和之教授 茂吉雅典講師
振幅変調型往復運動負荷装置を用いた生体負担度評価	電気関係学会東海支部	94D 藤原奈央	高田和之教授 茂吉雅典講師
重回帰モデルを用いた心拍変動パラメータによる血圧値推定	電気関係学会東海支部	97EM 森本陽子	高田和之教授
反応焼結法によるアパタイトの焼結	日本アパタイト研究会	97EM 牧原博、97ZD 宮本靖	市古忠利助教授
直流気体放電を用いた Si 基板上への Y 系超電導体薄膜作製に関する研究	電気関係学会東海支部	97EM 大谷達郎	関谷昌久教授
SF ₆ ガス中導体接続部の発熱現象が絶縁破壊に及ぼす影響	電気関係学会東海支部	94E 澤田敦抹、福本豊 97EM 大谷達郎	関谷昌久教授
32 極着磁磁石による新 ABC 用車輪速センサ	電気関係学会東海支部	96EM 鈴木智也	草加勝司教授 加藤哲男教授
継鉄法の自動磁気測定と保磁力値の変化	日本応用磁気学会	96EM 鈴木智也	加藤哲男教授
フェライト系 PM ステンレス鋼の磁気特性に及ぼす残留気孔の影響	粉体・粉末冶金協会	96EM 鈴木智也	草加勝司教授
Au-MoS ₂ 複合膜の電気伝導特性	超微粒子とクラスター懇談会	96EM 大矢博史	岩間三郎教授
Au-MoS ₂ 複合膜の構造とエネルギーギャップの測定	電子情報通信学会	96EM 大矢博史	岩間三郎教授
アモルファス Sb 超微粒子の結晶化の時間依存性	電気関係学会東海支部	97ZD 田仲圭	岩間三郎教授
同軸ダブルプローブ法によるガスフロー中のマイクロ波プラズマの計測	電気関係学会東海支部	96EM 川瀬貴志男	岩間三郎教授
非晶質 Sb 超微粒子の結晶化における速度定数の時間依存性	日本物理学会	97ZD 田仲圭	岩間三郎教授

・院生の学会発表者

演 題	学 会 名	氏 名	指導教員
非晶質 Sb 超微粒子の結晶化過程の電子顕微鏡観察	日本物理学会	97ZD 田仲圭、 94D 菊池さより、佐藤邦子	岩間三郎教授
電子ビームドーピングにおける不純物シートの厚さ依存性	電気関係学会東海支部	96EM 井口智明	和田隆夫教授
電子ビームドーピング (EBD) による金属・半導体・絶縁体の拡散係数の比較	電気関係学会東海支部	96EM 楯信彰	和田隆夫教授
低エネルギー電子照射における電子ビームドーピングのメカニズムの研究	電気関係学会東海支部	96EM 富田義典	和田隆夫教授
電子ビームドーピングによる自由原子の島成長	電気関係学会東海支部	96EM 野部正道	和田隆夫教授
電子ビームドーピング (EBD) を行った GaAs 基板のラマン分光および SIMS 測定	電気関係学会東海支部	96EM 安井文明	和田隆夫教授
電子ビームドーピング (EBD) の超拡散 3 次元モデル	電気関係学会東海支部	研究生 長尾浩道	和田隆夫教授
名古屋市内外における自宅周辺の騒音に対する住民意識	電子情報通信学会 日本音響学会	96EM 遠藤誠	三品善昭教授 大石弥幸教授
自宅周辺の音環境に対する住民意識と各種音源の関係	日本音響学会	96EM 遠藤誠	三品善昭教授 大石弥幸教授
住環境騒音の評価量と地域類型	電気関係学会東海支部	96EM 遠藤誠	三品善昭教授 大石弥幸教授
住宅周辺における各種音源の関係	日本音響学会	96EM 遠藤誠	三品善昭教授 大石弥幸教授
住環境騒音に関する反応と満足度	日本音響学会	96EM 遠藤誠	三品善昭教授 大石弥幸教授
鐘の音の距離減衰について	電気関係学会東海支部	94D 岩宮邦彦	三品善昭教授 大石弥幸教授
住居周辺の騒音における各種要因	日本音響学会	96EM 遠藤誠	三品善昭教授 大石弥幸教授
越流型水制における水刼ね効果	土木学会	96BM 大嶺大生	久保田稔教授
子供完全分離型における寝室選択時の空間的要因③ ～空間的要因間の優先順位～	日本建築学会	96BM 辻岡裕人	笠嶋泰教授
鉄筋コンクリート造有孔梁の曲げせん断実験	コンクリート工学年次大会	96BM 土田尚子	山本俊彦教授
鉄筋コンクリート造の有孔梁の実験(その2曲げせん断実験)	日本建築学会	96BM 土田尚子	山本俊彦教授
鉄筋コンクリート造開口壁の実験(その2曲げせん断実験)	日本建築学会東海支部	96BM 土田尚子	山本俊彦教授
Compaction of thin layer concrete using ultra sonic waves	I A S S '97	96BM 山本幸源	桑山忠教授
コンクリート中の電磁誘導加熱鉄筋放出マイクロ波特性について	日本建築学会全国大会 日本建築学会東海支部	97BM 阿部田康友	太田福男教授
電磁誘導加熱鉄筋によるかぶりコンクリートのひび割れ発生応力について	日本建築学会全国大会 日本建築学会東海支部	97BM 李 俊弦	太田福男教授
コイン駐車場の立地と利用実態に関する調査	土木学会	97BM 市川隆人	舟渡悦夫助教授
コイン駐車場に着目した駐車行動に関する研究	土木学会中部支部	97BM 市川隆人	舟渡悦夫助教授
高原川流域での河川水の水質と地質の関係	土木学会	97BM 田口春樹	下島榮一教授
ヒル谷川流域での河川の流量と水質の関係	土木学会中部支部	97BM 田口春樹	下島榮一教授
拘束条件下における超音波締固めの効果	土木学会中部支部	97BM 野上司嗣	桑山忠教授
子供完全分離型における寝室選択時の空間的要因② ～空間的要因の抽出～	日本建築学会	97BM 林 千尋	笠嶋泰教授
水制先端部に発生する洗掘深さに関する実験	土木学会中部支部	97BM 山下敦	久保田稔教授
超音波によるセメントコンクリートの水和反応促進2	土木学会	97BM 米村健	桑山忠教授
超音波を利用したモルタルの締め固め	土木学会中部支部	97BM 米村健	桑山忠教授
片振りと両振りにおける鋼のき裂進展特性	土木学会	97BM 若杉貴之	事口壽男教授
変動加重による鋼の微視き裂	土木学会中部支部	97BM 若杉貴之	事口壽男教授

大同事務分室

この度、大同校舎の学生用掲示板を1号館の廊下(東西)に移動・新設しました。(集中化対策)

従来は、学生室および教務室の掲示板については手狭で見にくい、特に休講および学生呼び出し、落とし物掲示については1・2号館通路に設置ということもあり、見づらく薄暗いイメージがありました。

また、学会ポスター等の集中化対策として、現クラブ委員会掲示板(3号館東外壁側)を変更して使用することにしました。

学生のみならず、この機会にぜひ、新しくなった掲示板を自分の目で確認し、自分に不利にならないよう、毎日何度かは見るようにしましょう!

図書館

ご存知ですか?皆さん

一文献の探し方(入門編)

近頃、過去に発表された論文(文献)を調べるために、図書館の雑誌類保管書庫(M4)で製本雑誌を取り出し、熱心に文献を探している学生諸君が目立ちます。

皆さんにこんな経験はありませんか?

- ・○○○○に関する文献がどこかにないだろうか。
- ・○○○○さんが発表した文献を探したい。
- ・○○雑誌の○○年度に掲載されている文献が欲しい。

このような時に必要な文献を手取り早く、簡単に探す方法として、インターネットあるいはCD-ROMを利用した文献検索法をご紹介します。

利用方法等、その他不明な点は図書館のサービスカウンター・レファレンスにお問い合わせ下さい。

1. オンライン情報検索システム「JOIS-IV」について

JOIS-IVは科学技術情報事業本部(JICST・旧日本科学技術情報センター)が開発提供している、インターネットで利用できるオンライン情報検索システムです。

パソコンからインターネットを経由して大型ホストに接続し、そこに収録されている膨大な情報の中から、文献の主要な用語などをキーワードにして、必要な文献を検索することができます。

なお、このシステムのデータベース「科学技術文献ファイル」には次のような特徴があります。(このシステムは有料ですが、

当分の間は少額な検索費用はテスト検索費として無料扱いにします)

- ・収録対象:国内外の雑誌約1万数千種
- ・収録期間:1975年以降最近まで
- ・収録量:数千数百万件(97年度)
- ・検索項目:キーワード、著者名、雑誌名、その他
- ・入力文字:漢字、カナ文字、英文字
- ・出力内容:和文抄録(タイトル、雑誌名、巻号、年度、著者名および論文の概要等)

2. JOIS 分野別 CD-ROM について

このCD-ROMはJICSTが作成販売しており、JOISシステムと同様、世界各国の文献を和文で要約(抄録)したものを技術分野毎に区分し、1年間分を1枚に収録しています。

利用する場合は図書館の専用パソコンを使用し、備え付けのマニュアルを参照すれば、誰でも容易に無料で検索できます。参考文献等が必要な場合などに有効に活用して下さい。

なお、図書館では次の分野のCD-ROMのうち、95年、および96年度版を所蔵しています。

〈参考:96年度版の抄録収録件数〉

- ・機械工学編—108,700件
- ・電気工学編—105,200件
- ・管理・システム技術編—58,600件
- ・土木・建築工学編—62,100件
- ・金属工学・鉱山工学・地球科学編—73,900件

今回は「ご存知ですか?皆さん一文献の探し方(応用編)」をご紹介します予定です。

庶務室

新郵便番号のお知らせ

2月2日から、この番号を記載することにより、本学宛郵便物への住所記載を省略することができます。

滝春校舎	4 5 7—8 5 3 0
大同校舎	4 5 7—8 5 3 1
白水校舎	4 5 7—8 5 3 2

学生室

卒業パーティーについて

本年度の卒業パーティーは、次のとおり実施することになりました。

日時:平成10年3月19日(木)

場所:名古屋ヒルトンホテル

内容:全学合同で実施

キャンパスカレンダー

1 月

26日(月) 後期授業終了

27日(火) 後期試験開始

2 月

6日(金)・7日(土) 前期入学試験

12日(木) 後期試験終了

13日(金) 後期集中講義開始

20日(金) 同終了

21日(土) 夜間主コース一般入学試験

23日(月)・24日(火) 後期試験成績発表

後期・追・特追再試験受付

25日(水) 後期追・特追・再試験開始

26日(木) 大学院後期入学試験(博士後期課程)

27日(金) 大学院後期入学試験(修士課程)

3 月

2日(月) 後期追・特追・再試験終了

11日(水) 後期追・特追・再試験成績発表

13日(金) 後期入学試験

19日(木) 学位記授与式 卒業パーティー

21日(土) 夜間主コース推薦入学試験

夜間主コース後期社会人推薦入学試験

26日(木) 春期休業開始 受講ガイダンス

(在学生)開始

30日(月) 在学生ガイダンス(4/1まで)

31日(火) 在学生健康診断(4/2まで)

編集後記

学生取材記者募集

23号より、広報室から社会交流センター事務室が担当することになりました。「学生への情報誌として、本学の日々の活動をお知らせしたり、意見の交換の場としてより身近な情報誌」としての紙面づくりを、と思っています。学生参加を積極的に取り上げますので、キャンパス内の出来事、クラブ活動などニュースを取材してくれる学生諸君を募集しています。なお、学生諸君からの投稿には、ささやかながら謝礼を用意しますので、じゃんじゃん投稿してください。

E-mail: pccir@daido-it.ac.jp